

# ICTを活用した保健分野の授業実践

## ー 授業実践を通じたICTの必要性を問う ー

学籍番号 (219344)

氏 名 (中尾 聡汰)

主指導教員 (林 洋輔)

副指導教員 (太田 順康)

## 1. 背景

### 1.1 実習校における課題

基本学校実習 I・II を通して、授業実践における ICT 活用は実習校が取り組んでいる 1 つの課題であることが分かった。その課題の背景には、GIGA スクール構想が関係している。GIGA スクール構想の目的は、1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 環境を実現することである。また、これまでの我が国の教育実践と最先端の ICT のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことである。それらを踏まえて、実習校では、教員同士が教科の垣根を超え、学び合うための授業観察週間を導入したり、委員会を中心 ICT 活用について探究し、授業などで実践したりする教員の姿が見受けられた。

### 1.2 生徒がITに触れる重要性

これから情報社会で生きていくために、生徒たちはより多く IT に触れる機会が必要である。また、現在の我が国では、デジタルディバイドが問題視されている。デジタルディバイドとは、PC やインターネットなどの IT を活用する能力や機会の違いによって生じる経済的・社会的な格差のことである。その格差がさらに進むと、多くの悪影響が生じると予想されている。例えば、情報化が進む現代社会では、ICT スキルを扱える人や企業ほど、収入が高くなりやすい傾向がある。そのため、IT に触れる機会が少ない人と多い人がいると、さらに将来、貧富の差が広がると懸念されている。また、情報弱者 (ICT スキルを扱えない人) は、緊急時の対応遅れや犯罪に巻き込まれるリスクが高まる。自然災害、疫病拡大、テロなどの緊急時に、ICT による高い情報処理能力があれば、状況を的確に判断でき、適切な対応をとりやすい。しかし、情報弱者は自身の状況を把握しにくいことから、緊急時の対応の遅れで被害を受けてしまう可能性も生じる。また、IT リテラシーの低さにより、インターネットを介した犯罪に遭うリスクの高さも否定できない。その他にも、IT 人材不足による IT インフラの整備や支援の遅れ、グローバル化の遅れによる我が国の国際競争力の低下に繋がる。そ

これらの改善のために、教師が、生徒たちにITに触れる機会を多く与え、彼らが抱くであろうITへの苦手意識を取り除き、彼らのITリテラシーを向上させることが必要であると考え。

## 2. 本研究の手法

### 2. 1 研究対象

大阪府立〇〇高等学校2学年4学級(計161名)を研究対象とした。

### 2. 2 授業概要

第2学年保健体育の保健分野「加齢と健康」と「高齢者のための社会的取り組み」を授業内容とした。授業は全6回実施した。授業の目標は、ICT活用した個人活動や協働活動を通して、生徒たちが多種多様な考えを知り、授業での学びを深めることとした。また本授業の特徴は、誰一人取り残すことなく、全員の考えを瞬時に知ることができるというICTの利点を最大限に活用した授業である。本授業では、生徒1人に対して1台タブレットを持たせ、「GoogleClassroom」、「Jamboard」、「Google フォーム」、「スプレッドシート」の主に4つのツールを活用し、意見共有や資料確認を行いやすい体制を整えた。そして、ITリテラシーの向上のために調べ学習や、クラウド型ボード「Jamboard」を活用した効率的な協働学習を中心に授業を展開した。

### 2. 3 アンケート調査と計量テキスト分析

アンケート調査は上記の4学級の生徒に実施した。質問内容は「ICTを使った授業の感想を教えてください。(良かった点や改善点など)」とし、Googleフォームで計161名の生徒たちに依頼した。回答は126件集まった。その回答を、KHコーダーを用い、共起ネットワーク図を作成した。そして、その図を基に、授業実践におけるICT活用の利点を分析した。

## 3. 結果と考察

アンケート調査とKHコーダーの分析から、授業実践におけるICT活用は、「共有による深い学び」、「質の高い平等な教育」、「効率性の向上」、「情報技術を扱う練習」のこの4観点において利点が見られる。これらの点から、ICTを活用することで、生徒たちは効率よくお互いの意見や考えを共有することが可能になるが、同時にICTを通じたいじめの発展につながったり、情報漏洩の可能性が上がったりなど、様々な危険と常に隣合わせであることを意識しなければならない。しかし、これらの問題点を考慮する限り、授業実践におけるICT活用はGIGAスクール構想が掲げる次の目標の達成——「特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境の実現・これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すこと」の達成——が期待できる。さらに、生徒たちにおいてITに触れる機会が教師により多く提供されることは、生徒たちの将来のキャリア形成や我が国の将来のために、必要不可欠である。